

令和5年度 学校評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。今後も教育理念は変わらず運用していく。	【自己評価を承認】 歴史のある学校で、長い間培われた理念が学生たちに浸透しているものと評価します。自己評価どおりの3.0評価と考えます。
II 教育目標	昨年より新カリキュラムが開始された。全学年の教育目標の評価を実施した。ほぼ8割程度が目標を達成している。今後は、新カリキュラムが3年目を迎え、全学年が新カリキュラムにて学習していくため、その成果を検討する。	【自己評価を承認】 学生を主体とした目標となっていて、キャリアオーナーとして主体的に学生が学ぶ形となっている部分を評価します。
III 教育課程・経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、シラバスは学生個人に配布している。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっていることより、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議を実施し、教育環境を整えている。臨地指導者の各研修紹介や参加協力を継続している。	【自己評価を承認】 臨床主導者講習会ですが、遠州病院では講習会に参加する年代の看護師が不足している背景もあり、難しい課題です。本日、看護協会様もお見えになりましたので、毎年講習会を開催していただきたい要望も伝えさせていただきました。本年度からEラーニングでの講習会もできるなど環境も良くなりましたので、厚生連全体で積極的に参加を勧めていただきたい。
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討は日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。学生が学習をわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を求める授業や実習においては、新カリキュラムよりルーブリック評価を取り入れた。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。	【自己評価を承認】 ルーブリック評価を取り入れており、教員のみならずも限られた時間のなか、学生への評価がタイムリーにスピード感をもって実現できていることは大変素晴らしい。
V 経営管理	専任教員の確保は、規程数(8人以上)は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。また、新校舎移転のため、現在は旧校舎の安全を確保するために日々修繕を実施している。	【自己評価以上の評価】 自己評価2.9と0.1ポイント下がっているが、歴史のある建物が今まで継続されたなかでも、時代のニーズに応じた改修工事がされていますので、3.0評価でよろしいのではないのでしょうか。
VI 入学	今後18歳人口は減少していく。静岡県西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって対応を考えていきたい。年々受験者数が減少傾向にあり、令和5年度の入学人数は定員に満たなかった。次年度は入試日程及び受験科目を変更し、入学者確保に努めていく。	【自己評価を承認】 指定校推薦の枠を広げたり、日程を早めたり、小論文の廃止・学科の調整等を実施されていくということですので、次年度の結果に期待いたします。浜松は看護大学が2校もあり全国的に大学志向という傾向もありますが、看護専門学校には看護専門学校の良い部分もたくさんありますので、厚生連看護専門学校の魅力を外部に発信し続けていただきたい。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去5年間としては100%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解・他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。進学について助産師志望の学生が2名あったが、残念ながら受験合格に至らなかった。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生連関連病院の報告より把握している。	【自己評価以上の評価】 自己評価2.6と0.4ポイント評価を下げており、理由は卒業生が厚生連から転職した後の足跡が追えないためとのことであった。しかし、看護学校の役割としては、新卒から3年目くらいまでに学校の学びが生かされて、看護師としての自立、社会への貢献が重要となりますので、永続的な学生の足跡については重要視しなくてもよろしいと考えます。
VIII 地域社会国際交流	看護総合IV(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者の講義を依頼している。地域活動としては、看護師希望者の進学相談会への参加や関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。	【自己評価以上の評価】 「国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている」の自己評価が1と最低評価となっていますが、WEB環境・図書環境も整っており、学生が自発的に学びたい場面で必要な環境は整っていますので、低い評価でなくてもよろしいと考えます。
ix 研究	日々の授業の評価・まとめを次に活かしていくように、新校舎では環境の整備を検討している。今後は、関連病院や施設との共同研究も視野にいれていく。	【自己評価以上の評価】 先生方がルーブリック評価を取り入れられているなか、研究に時間を割くことが難しいと思います。しかし、厚生連の合同研究会や外部の研究を聞く機会を学校が与えているという面で一定の評価ができていると考えます。自己評価総合2点としていますが、悲観的な評価をされなくてもよいのではないのでしょうか。

※看護学校評価委員会 令和6年5月30日 場所:本校会議室
 委員長 佐藤比奈子 (JA静岡厚生連遠州病院看護副部長)
 委員 櫻井郁子 (静岡県看護協会常務理事)
 委員 松井陽子 (卒業生)
 委員 桑原吉英 (厚生連本所:管理部部长兼人事課長)

事務局 藤田美保子 (学校長)
 竹山徹 (課長)